

道

2024・7・3

通信 No 1787



カキツバタ

本日の予定 総会です。

次回 7月10日(水) 6時30分～ 岡野中 小坂先生・二宮先生
練習曲 鶴(1集) 満州の丘に立ちて(3集)

小坂幸世先生 清水一成先生 二宮悠太先生 森陽介先生 合唱団「道」団員の皆さまへ

中山英雄 2024年6月24日

～ 感謝を込めて ～

神奈川県立音楽堂やみなとみらいホール(大ホール)での定期演奏会の数々。団員の皆さんと共にいったロシア演奏旅行。「アムール河の波」や「バイカル湖のほとり」を現地で歌った感激。そして、道草コンサートでは、和やかな雰囲気の中、いつもの練習や公演とは違う一面を発見し驚いたものでした。思い出は尽きません。

～「道」との出会い～

北川剛先生の指揮する合唱団「道」のコンサートでの皆さんの「うた」にはいつも心あたたまることがあり、感激の連続でした。アコーディオン伴奏者として呼び下され即刻幸せな関係がスタート。そして北川先生退任後は、後継指導者に指名して下さって今に至っているわけです。

～ロシア演奏旅行～

楽しかったロシア演奏旅行は観光も兼ねて行われ、ロシアの人達の生活や文化に触れ学ぶことの多いものでした。当地での感激の数々は、私たちの血肉の一部として体内に取り込まれ、ずっと生きていくことと思います。

演奏旅行での皆さんの働きぶりは、その準備段階から用意万全で、お土産の購入、美空ひばりの歌った「一本の鉛筆」のロシア語訳詞付きの楽譜(ロシア語訳詞児島宏子)作成、帰国後の報告演奏会の成功、総括文書のまとめ等にも私は目を見張りました。「道」の皆さんには新旧団員の支え合いや協力なども全く素晴らしいものがあります。私が合唱団「道」の皆さんを心から尊敬するのもそういうところにあります。

～6月7日 定期演奏会～

久しぶりに横浜の地を訪れ、「道」定期演奏会のアンコール曲「道」(ノヴィコフ作曲)を岸本力氏と一緒に演奏できたことはこの上ない喜びでした。この曲のタイトルから合唱団の団名が決められたことの運命的なできごとにも胸が震えます。

団員の皆さんの前に身を置いた途端、一瞬にして皆さんと共に演奏していた昔に戻った気がしました。何とか無事に2曲の指揮ができたのも皆様の暖かなお気持ちがあったればこそです。ありがとうございます。

～最後に～

6月7日の合唱団「道」55周年コンサートの大成功おめでとうございます。また、お招きを下さりアンコール2曲を指揮するという機会を与えていただいたことについては誠に嬉しく感謝を申し上げます。私が退団してから今日までの時間差は直ぐに無くなったように感じられて、懐かしさが蘇ってまいりました。

「道」の更なる発展を願い、祈りながらお礼の言葉といたします。